

### たいせつにしよう

じぶんのからだ・ともだちのからだ

特別支援学級 1年生～6年生 特別活動



指導のポイント

○文部科学省の教材を使用して、自分と他の人の大切なところを守るルールについて繰り返し確認し、自分のことも相手のことも大切にしようとする態度を育むことができるようにする。

本授業の位置付け

小学校学習指導要領との関連

第6章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

2 内容 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

※<自立活動> 3 人間関係の形成「他者の意図や感情の理解」「自己の理解と行動の調整」とも関連

指導計画

時	主な学習活動	ポイント・工夫
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の体は大切。自分だけの大切なところ</li> <li>○他の人の体も大切。</li> <li>○嫌な気持ちになったときはどうする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省の教材を使用し、自分や他の人の大切なところを守るルールについて理解できるようにする。</li> <li>・嫌な気持ちになったときの行動について具体例を挙げて説明する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     文部科学省教材（小学校低・中学年用）スライド資料を活用。                 </div>		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○周りの人を嫌な気持ちにさせない行動を知ろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情カードを使用し、具体的な事例を通してその行動によって周囲がどのように感じているのかを考えさせる。</li> </ul>
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○嫌な気持ちの表現方法を知ろう。</li> <li>○嫌な気持ちをはっきり伝えよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌な気持ちの具体的な表現方法（表情やしぐさ）を理解し、ロールプレイングを通して実践する力を養う。</li> </ul>

※スライド・イラスト：文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材より引用

## 本時の展開

本時の目標 ○嫌だと感じている時の具体的な表現方法を知ること、相手が嫌だと感じていることに気が付けるようにするとともに、自分の嫌な気持ちをはっきりと伝える方法を身に付ける。

学習内容・活動等	留意点等			
<p>○自分や友達の体を大切にするためのルールを確認する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みない</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みせない</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さわらない</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さわらせない</span>                      周りの人を嫌な気持ちにさせない行動が大切とわかっているけど…</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         どうしたら、友達の「いやだ」に気付けるかな。                     </div> <p>○提示された複数の場面（教師2名の役割演技）を見る。                      登場人物の「いやだ」を見つけたら「いやだカード」を選んで知らせる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">                             場面① 汚れた手で手をつなごうとしてきた…                         </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">                             場面② 体をくっつけて隣に並んできた…                         </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">                             場面③ 友達が投げキッスをしてきた…                         </td> </tr> </table> <p>【気付いたポイントは？】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌そうな（困った）顔</li> <li>・体をよける動作</li> <li>・うつむくしぐさ</li> <li>・ためいき など</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         場面④ 「裸の写真撮らせて」と言われた…                          →笑った顔で「え～。いやだなあ。」                     </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         言葉や表情、しぐさ（動作）に、「いやだ」のきもちが表れているね。友達の「いやだ」に気付くこと、自分の「いやだ」をはっきり伝えることが大切だね。                     </div> <p>○ロールプレイングで、「いやだ」をはっきりと伝える練習をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;">大きい声を出そうかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;">動作で伝えたいな。</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">                         笑いながら言っても伝わらないかも。                     </div> <div style="margin: 10px 0;"> </div> <p>○もし「いやだ」が言えなかった時、だれに相談するかを考え、ワークシートに記入する。</p>	場面① 汚れた手で手をつなごうとしてきた…	場面② 体をくっつけて隣に並んできた…	場面③ 友達が投げキッスをしてきた…	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストと簡単な言葉で「合言葉」を掲示し、いつでも確認できるようにする。</li> <li>・教師による役割演技で、場面の状況の理解を促す。</li> <li>・「いやだカード」を使って、気付いたことを表現しやすいよう支援する。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いやだ」の具体的な表現について、ロールプレイングで実際に行ってみることで、理解を深めるとともに、日常生活で実践しようとする気持ちを育む。</li> <li>・ロールプレイングの参加が難しい児童には、実践できそうな表現をイラストから選択できるようにし、教師の演技を見ることで理解を促す。</li> </ul>
場面① 汚れた手で手をつなごうとしてきた…	場面② 体をくっつけて隣に並んできた…	場面③ 友達が投げキッスをしてきた…		

※スライド・イラスト：文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材より引用

## 本実践の成果と課題について

### 日常生活で実践できる力を育むために

学習課題を自分事として捉え考えられるよう、日常で起こり得る生活場面を設定した。イラストと合わせて2人の教師による演技で提示することで、場面の理解だけでなく、言葉やイラストでは表現しにくい「距離感」や「相手を不快にさせる行動」についての理解も促すことができた。また、子どもの反応に合わせて強調したい部分を繰り返し提示するのが良かった。どの子ども場面を理解し、カードを利用しながら全員が自分の考えを表現できていた。

ロールプレイングで実際に行動してみることで、「嫌だ」をはっきりと伝えることの大切さや難しさの実感を促すことができた。

本実践を通して、知識の定着と実践する力を育むことで、自分を守る力と合わせて意図せずに相手を傷つけてしまうことがないようにする力を育む大切さを改めて感じた。

### 自立活動における課題を意識した学習内容の精選

「生命（いのち）の安全教育」は、自立活動の指導内容とも関連させて指導することが有効であると考え。本実践では、「相手の気持ちに関心を寄せることが難しい。」「相手の気持ちに気付いても自分の気持ちを優先してしまう。」という学級児童の実態から、

<自立活動>

3 人間関係の形成「他者の意図や感情の理解」「自己の理解と行動の調整」にも関連させて、知識の理解にとどまることがないように、実際の生活で機能する対人スキルの学習へと発展できる内容を構築にした。「相手の嫌な気持ちに気付く。」（加害者にならないために）、「自分の嫌な気持ちをはっきりと表現する。」（被害者にならないために）といった、感情理解と行動調整を結び付ける学習を関連させることで、自分と他者の双方の尊厳を守りながら関係を築いていく力を育てることができるのではないかと考えた。

### 「生命（いのち）の安全教育」の教材を活用した継続的な学習

特別な教育的支援が必要な子どもの中には「自分のからだも他の人のからだも大切である」ことを理解し、そのためのルールを知識として定着するのに時間がかかったり、理解はしていても周囲に流され安全な意思決定や相手の気持ちを尊重した意思決定をすることが難しかったりする子どもも多い。当たり前のゆるぎない意識として子どもたちに定着させることができるよう、以下の必要性を本実践の中で感じた。

「幼児期から継続的に学習を積み重ね定着させること」

文部科学省の「生命（いのち）の安全教育」の教材を基本教材として活用することで、校種や指導者が変わっても系統的・継続的な学習の積み重ねができると感じた。本実践でも1時間目で使用したスライドは、今後も学級の実態に合わせて修正を加えながら、年間を通じて、継続して活用していきたい。（毎年度、同じ教材を用いて、繰り返し取り組むことでも定着を促すことができると考えている。）

「安全行動を示す合言葉を誰もが覚えること」

防災教育（避難訓練の「お・は・し・も」のように）と同様に、「生命（いのち）の安全教育」でも分かりやすい合言葉を活用し、意識の向上・定着につなげることが重要と考える。本実践では「みない・みせない・さわらない・さわせない」「いやだ→にげる→はなす」という簡単な言葉とイラストで印象付け、合言葉として毎時間確認した。